

豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

- ①ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではないこと、②全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難であることから、ワクチン接種農場においても免疫を獲得していない豚が存在。
- このため、ワクチン接種農場においても、豚熱ウイルスの農場侵入防止のための、飼養衛生管理の徹底と豚に異状がみられた場合の早期通報が必要不可欠。

①免疫付与率80%

■ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではない。

- ・ ワクチンの抗体付与率は80~90%

②子豚

■全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難。

㊦ 母乳を通じて母豚から移行する免疫の量が多い期間は、接種してもワクチンウイルスが排除され、ワクチンの効果がない

① 母豚から移行した免疫の量は漸減していくため、適切な時期にワクチンを接種すれば、効果が発現

- ・用法・用量では、1~2か月齢での接種を推奨
- ・現状、50~60日齢程度での接種が望ましい(牛豚小委議論)

㊧ しかしながら、個体によりワクチンの適切な接種時期に差異があることから、全ての子豚に適切な時期にワクチン接種することは困難

